

2018 年度 FD 広報プロジェクト活動計画

FD 広報プロジェクト・リーダー 小屋 多恵子

1 活動目的

- ・ FD 活動とその意義の認知度を高める。
- ・ 学生・教職員に対して、学習支援関連の情報を提供するとともに、コンクールを通じて FD に対する関心を喚起する。
- ・ 教員に対して、授業改善に役立つ情報や資料を提供する。

2 活動計画

(1) FD 学生の声コンクール・FD 川柳の実施

- ・ 昨年度は声コン・FD 川柳ともに、学生から教職員まで広く募集した結果、応募総数が増加した。今年度も昨年度と同様に実施し、多くの学生・教職員に FD への理解と授業改善への関心を高めることを目指す。今年度は「第 11 回 FD 学生の声コンクール」と「第 3 回 FD 川柳」。
※応募件数 2016 年度声コン 30 件・FD 川柳 136 件, 2017 年度声コン 40 件・FD 川柳 139
- ・ キーワード式のテーマを提示し、指定したキーワードのいずれか、あるいは両方から連想する大学での学びや学外での活動、自らの成長に関わった経験などを自由に表現してもらう。今年度声コンのキーワード（多様性・空気）は声コン新聞（2018 年 3 月発行）に掲載済み。
- ・ 重複受賞の是非や応募作品数を今年度は検討していく。特に、重複受賞に対する賞金をどうするのかは、昨年度の例を参考にしながら検討することにする。
- ・ 6 月までに募集要項の作成・公表、9 月末に募集締め切り、10 月に審査、12 月に授賞式・座談会またはアンケート実施のスケジュールで進めていく。認知度をあげ、幅広く学生を集めるといった目的から、7 月の授業改善アンケート実施時期と秋学期開始時期に重点的に告知を行いたい。
- ・ 例年通り、受賞作品と受賞者座談会の成果は、タブロイド版新聞形式で印刷し配布する。これまでの配布状況により、適切な発行部数を検討する。（2016 年度 15,000 部発行, 2017 年度 12,000 部発行）

(2) 学習支援ハンドブックの編集、活用事例の収集等

- ・ 来年度から変更になる成績評価基準を中心に、2019 年度に向けて情報をアップデートし、よりよいハンドブック編集のために内容の改訂を行っていく。春学期中に追加・削除項目の洗い出しを行い、写真撮影のほしいの日程を決めておきたい。
- ・ 教員や学生による実際の活用事例アンケートを実施することによって、使用状況を把握し、広く利用してもらえるようなアイデアを検討していく。
- ・ 他大学での学習支援ハンドブックの取り組みを調査し、活用できる取り組みは参考にしたい。

(3) FD 広報活動の充実化

- ・ FD 推進センターNewsletter を例年通り 6 回程度発行する。FD の活動を広く知ってもらうためにプロジェクト関係者への取材やアカデミックサポート・サービスにおける講師紹介など、記事を依頼または執筆して学内の FD 活動情報の共有を図る。
- ・ 他のプロジェクトと協同・連携をはかりながらして広報活動を進めていく。例えば、授業改善アンケートの回答率をあげるための効果的な広報活動を思考し、推進していく。

3 メンバー

岩田和子（法）、米家志乃布（文）、高橋美穂子（経営）、川口悠子（理工）、飯野厚（経済）、堀越大史（学務部教育支援課）

2018 年度大まかな流れ

	FD 学生の声コンクール・FD 川柳	学習支援ハンドブックの編集等	Newsletter
4 月		・追加・削除項目の洗い出し	・年 6 回程度の発行
5 月		・写真撮影の大まかな予定決定	
6 月	・募集要項の作成と公表	・他大学の取り組み調査	
7 月	・広報	・残部や利用状況の調査	
		・使用状況アンケート実施	
8 月	・広報		
9 月	・広報 ・募集締め切り		
10 月	・審査	・執筆と加筆修正	
11 月		・執筆と加筆修正	
12 月	・授賞式と座談会/アンケート	・執筆と加筆修正	
1 月	・声コン新聞作成	・校正	
2 月	・声コン新聞作成・校正	・校正	
3 月	・声コン新聞校正・公表		

以上